

■新総合計画（まちづくり）の視点(意見一覧)

審議項目 1 将来の米沢市の姿をどのように想定(想像)するか

Q1: 50年後に残したい(または、あるべき)米沢市の姿(将来像)

- 上杉鷹山の精神を大切に、大学を核とした学園都市として発展しつづける街
- 機械・デジタル・ロボット・通信等に人間が動かされない、人が中心の社会
- 自然や環境がきちんとある生活が残っていること
- 自然が身近にあり、ゆったりと時間の流れる暮らしやすい町(生活に関する公共施設が近くにある。歴史に興味があり、落ち着いたただ住まいを求めて観光客が訪れる町)
- 魅力ある仕事のある町(最先端の技術を持つ企業があり、新しいスタイルの農業とその生産物がある)
- コンパクトな街。スリム化、効率化、システム化された行政サービス
- 1世帯あたりの所得が多い
- 上杉の文化の色濃い街が、“濃い”歴史の街として交流人口を増やせる
- 健康長寿社会を実現した米沢市
- 暮らし易さ重視の整備された町
- 規模を求めるのではなく競争力ある個々が豊かな地域
- 豊かな自然環境、最先端 IT、ゼロエミッション、エネルギーの完全自給自足が全て整った世界に誇れる環境の中で本来の人間の幸福や充実を享受できる次世代都市
- 多世代同居家族を核とした生きがい、やりがいを共感できる暮らし
- 自然景観があり、歴史・文化あふれるまち
- 環境保全型に対応した都市
- 自然災害に強硬な安心安全都市
- 米沢の自然、歴史文化を残し、産業の活性化から雇用創出を産み出し活力ある街になることを望みます
- たとえ人口5万人程度の小都市になったとしても、協働・互助の精神による物心両面の豊かさを享受できる街
- 米沢のよさが生き続ける町
- 米沢らしさを追い求める町
- 人を育てる人を大切にする町
- 安心して暮らし、幸せを感じる町
- 最高レベルの生活空間
- 最先端の業務拠点
- 高度な情報の集積、交流、発信の空間
- 安全・安心かつ老若男女問わず、我が街を誇りに思える街
- 農・商・工・観等各々特色ある地域毎に、見事に整備された上杉の城下町
- 豊かな自然
- 城下町としての歴史的な建造物や景観
- 米沢の有名な特産物
- 緑豊かで、地域の歴史と文化を尊び、皆が支え合い愛しみ合う、世界の憧れの街「米沢」
- 特定の会社の存在や業績に依存しない・企業城下町やアメリカ型大量消費の経済原理から一步抜けた街
- 住む人が米沢の歴史と文化を深く理解出来ている街。それにより地域に対する誇りや自尊心が意識の隅々まで行き届いている街
- 日本国が持つ歴史と文化を深く理解する市民が暮らす街。また伝統や文化を壊すような事象が合った場合にはきちんと対応できる意識を持つ市民が作る街
- 上杉鷹山の精神文化(生き方／なせばなる、生活／質素儉約、かてももの)がベースコンセプトとなっている街
- 食糧自給率100%以上の街
- 暮らしたい街日本一の街(子育てするなら米沢、老後元気で安心して暮らすなら米沢)
- 先端産業を支える優秀な人材の宝庫(学力、語学力、技術力)
- 健康長寿日本一の街
- 市民の半数以上が英語を話せる街
- 出生率1.8以上、移住人口(外国人を含む)を含めた人口が8万～9万、高齢者率25%

Q2:上記の将来像のために、10年後、20年後、30年後、40年後は、どうなっていることが必要

か

- オフィスアルカディアにおける山形大学を中心とした第2キャンパス、サイエンスパークの整備などを行い、全国でも類を見ない学園都市の形成を進める。また、街のコンパクト化や集約化を進め、住みやすい街づくりを進めていく
- 社会や市場はどんどんと変化を続ける、想定外の変化を視野に入れ、その都度複数の未来を洞察することが必要
- 具体的にやることを絞り込み、最善の方法を検討して実行。方法の見直しは毎年行い、10年ごとに評価する。子供達への教育は時間がかかるので早速取り組む。市民へのPRや全国的PRも早めに行う。20年後、30年後、40年後は、それまでに育てた市民に任せるしかないので、最初の10年に少しでも成果が出ることを目指し、その後の継続に繋げる
- 市政のスリム化とシステム化(ソリューションによる効率化)を実施し、開発する人材も育成、雇用する
- 女性の働く環境の整備(結婚、出産、育児が働くことの障害にならない環境づくり)
- “本物の”歴史の街づくり、啓発活動
- 高齢者の要介護状態や重度化を予防し、QOL(quality of life 物理的な豊かさやサービスの量、個々の身辺自立だけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさと自己実現を含めた概念)の維持・向上や健康寿命の延伸を目指している
- <10年後>小中学校の新区画が進み、新たなコミュニティが構築される。<20年後>乳幼児から高校就学期までを中心とした共有スペースが整備される。<30年後>若者の地元就労率やUターン率が高まり、暮らし易さが実感できる。<40年後>3世代同居が増加し、出生率も向上。新しいものと古き伝統が融合し活気がある
- 付加価値を創出する、定着する人を増やす、流入する人を増やす、楽しく健やかに過ごす
- 5年後・「世界で最も新事業にチャレンジし易い環境」を行政システムとして実現する。(産官学連携でその環境確立を成し遂げる)10年後・チャレンジをしたい人間が世界中から集まり、チャレンジ精神を持つもの同士が次の新しい産業をクリエイトし、継続的なベンチャー企業の創出。雇用の拡大。結果として地域に活力を生む 継続的好循環な地域となる。20年後・上記の「50年後～」にて描いた世界の完全実現
- 農業を主とする農村活力を生む米沢独自の農業振興と「米沢」のネームバリューを生かした農産品の開発と創出
- 生産ほ場基盤の整備と新規雇用の開拓
- 自然エネルギーを創出し、環境保全とエコなまちづくり
- しごと、暮らし、人づくりを基本として若い人が残りたいと思える環境づくり(しごと・結婚・子育て支援)を充実させる
- 街のコンパクト化・集約化を進めていくこと。近隣市町との連携をさらに深めて公共的・社会的コストを抑制していくこと。諸インフラの持ち合い分担や相乗り。有機エレクトロニクスや観光などオンリーワンになれる要素を集中して育てていくこと(=存在感の発揮)。行政サービスや都市機能のダウンサイジング化を市民が受容していくこと。これらのアプローチとなる10年後～40年後としていくべき。
- 小中学校教育から生涯教育、企業での人材育成まで国際性豊かな人材の育成が幅広く行われている
- まちなか広場周辺の既存建築物の用途転用、建替えによって業務や商業床の面積が増加し多くの集客交流を生み出す拠点となっている
- 産業、大学、研究施設、行政間の連携により内外の様々な情報や技術が行き交い「知」の集積によって新たな価値を生み出す空間となっている
- 多くのロボットや自然を有効に使用した各種産業と快適な生活環境がある街
- 暮らしやすい生活環境づくり、活力ある地域産業づくり、誰もが安心して暮らしていけるまちづくり、地域で支え合うやさしいまちづくり
- 50年後のために、今からの積み重ねが大切。将来に向かって、まずは「今」始めること。10年後、20年後と、「住みやすい」「楽しい」「米沢が好き」という市民の声がどんどん増えていくこと
- 日本近現代史・東北～米沢の歴史教育の充実
- 観光産業で雇用が生まれる仕組みづくり
- 雪を利用した新事業の開発
- 米沢牛以外の食のブランディングによるまちづくり 例)館山りんごのブランド化 → 「アップルパイ」の街 現代版かてものレシピ創造 → 家庭、飲食店、旅館
- 農地の集約化、後継者育成支援、新規就農者支援による農業生産人口の拡大
- 学力の向上(国立大学進学率全国一位)と若年労働者の人材育成・職業能力開発システムの構築(産・官・学連携による若年者のキャリア形成、職業訓練の仕組み作り)による高度な労働力を持つ街
- 市民の半数以上が英語を話せる街、市民の20%が中国語や韓国語など第2外国語を話せる街
- 10年後を目指した地域包括ケアシステムの確立
- 企業誘致型雇用に依存しない、農業の6次産業化を含めた内発型産業育成による雇用創出
- 女性労働力率、高齢者労働力率の向上
若年勤労者、女性勤労者の所得の向上(目標300～350万円)

**Q:人口定住に結びつく持続可能な経済活動を
実現するために何が必要か**

- 工業や農林業の自発型企業の増大や既存企業の生産性の最適化を図り、雇用の場を増やす。若手のみならず、女性や高齢者の雇用拡大
- 人間同士のつながりの強化
- 人間と自然とのつながりの強化
- 魅力ある雇用の確保(新しい分野の企業誘致とそのためへの支援)
- 米沢の新しい産物の開拓と支援、そして全国へのPR
- 山大工学部を中心としたイノベーション
- 女性が働ける環境
- 有機ELを米沢が発信する商品として、全国や世界を相手にした流通を目指し、雇用を生み出していくこと
- 20歳～30歳を中心とした将来を担う人材の転出を減らし、定着させる
- 海外との交流を促進する。地域に付加価値をもたらす海外からの人材を積極的に導入する
- 高島町、川西町等との広域役割分担と一体化を進める
- インバウンド人口を増やす観光・滞在資源の強化、情報の発信
- 新事業にチャレンジし易い環境を行政システムとして実現する(産官学連携でその環境確立を成し遂げる)
- 今ある農工商を米沢のストーリーにのせ、塊となってブランド化する。ヨーロッパの地方都市のように分散と集中と特色づくりを徹底する
- ここにあるもう一つの魅力 里山のブラッシュアップ(日本の魅力は東京ではない)
- 施策に優先順位を決めて、それに適した予算配分で、スピーディで効率的な経済活動
- 産学官民それぞれの分野の連携強化と現状把握
- 大学(山大、栄養大学)と連携し産業の創出
- 若い人たちが就職希望するような企業をおく
- 雇用の場の拡充

**Q:すべての市民の生活の質の向上のために何が
必要か**

- 基本は個人所得の増加と、市民税を下げること。子育て、医療、福祉などのサービスの向上
- 一人一人の生産性を増加させることで活力を維持
- 今の農・商業の弱体化を強化する
- 市民の意識を高める(健康への関心、栄養への関心、運動への関心、自分の町の歴史や現状への関心等)
- 地域コミュニティの再構築と充実化
- 交通インフラの整備は不可欠
- 全ライフステージにおける健康づくり・食育の推進
- 安定した就労とこども手当の充実
- 定着した人が魅力を感じるまちづくり
- 地域を特徴づける景観整備
- 里山コミュニティの形成
- 都市機能と住環境を繋ぐ利便性の高い雪が苦にならない移動インフラの整備・充実(LRT:Light rail transit(次世代型路面電車)など)
- 市民と一体となった健康づくり、未病対策、医療体制の充実
- 新ビジネス創出を継続的に生み出す能力を持つ人材が定住しようと思える魅力的なビジネスクラスターシステム(高額納税者 地域内定住の確保、地域インフラの最先端化、全市民の生活品質の向上)
- 働く場所を提供できる魅力ある農工商が塊となって存在し、それぞれの地域が活力をもち、医療、教育、介護、地域の相互扶助機能が存続する事。米沢だからこそできることを外から来た私は強く感じます
- 個人所得をあげ、経済面での豊かな暮らし
- 子育て、医療、福祉サービス向上
- 近距離で老若男女が楽しめる大型アミューズメント施設やイベントの創出
- 年代を超えた一人一人が生きがいを持てる活動出来る環境づくり(高齢者の雇用～教室等)

**Q:地域特性の継承・創造を行うために何が必要
か**

- 空き教室やコミセンを活用して、高齢者と子供達との交流の機会を増やし、歴史、文化の継承を行う
- 一人一人の生産性を増加させることで活力を維持
- 今の農・商業の弱体化を強化する
- 人財育成(郷土愛や生活への関心を子供の時から育てる、故郷に戻りたい中高年の受け皿も工夫する)
- 本物の歴史を紡いでいく、ハードソフト両面の観光施策
- 民間組織の結集
- 学区の東西南北制が、既存のコミュニティ同士の対立にならないよう、学区に合わせたコミセンの再編成が大事。その上で、伝統と伝承を考えていく
- 承継・創造を検討するにあたって、日本創成会議やフィディア総研等による将来推計で山形県や米沢市が比較的高く評価されることとなった要因については注意を払う必要がある(三世同居率、世帯収入、労働力人口純転出など)
- 既存市民の地域外流出防止ではなく、地域外人口の誘致に繋がる経済的魅力を提供出来る行政システムの創出に優先順位をおく事(元々の江戸っ子は東京人口の1/20である事実を真剣に考えたい)
- 従来の米沢にある地域の相互扶助機能が存続するようなくみづくりと各地区の世代交代による若者への責任委譲の上手いタイミングづくりをすすめる。各地区の能動的な地域づくりの推進と年代毎の役割作り、年長者の社会参加
- コミュニティ施設や設備の充実
- 地域を知ってもらうための情報通信整備と宣伝
- 利便性の向上(道路交通整備)
- 各地域のネームバリュー農産物の宣伝・PR活動
- 交通弱者も平等に利用できる公共施設を整備す

(その他の視点)

- 人口が13万人から9万人になったときの上杉鷹山の政策に学べ(時代背景は違うが視点は同じ)
- 18歳の決断までの子ども時代に市行政として積極的に働きかけていく。個々の心の原風景が郷土愛となって、自分たちの町として町を作っていく人となる為に18歳までの育ちの中での暮らし易さにアプローチしていく
- 付加価値を創出する能力を高め、10年後には付加価値を1.2倍まで50年後に約3倍に高める
- 省人化のための投資から、製品開発や市場開拓等の付加価値創出のための投資へのシフトを促進する
- 雇用の拡大を含めた労働分配率の向上(市民所得の雇用者へのシフト)を促進する
- 成長著しい海外市場への展開を支援する
- 内発的創造力を高めるサイエンスシティ(サイエンスパーク)の整備・運営
- 国際人材の育成・強化
- 地域性や豊かな自然を守る事への優先順位が低くなりがちな少品種大量生産を得意とする大企業の視点では無く、小規模であってもチャレンジする人材や小規模団体の視点で「あるべき姿」を行政主導で描く。強くローカル連携されているが故にチャレンジし易い＝経済的基盤をもってこの地に生活する事に魅力をもたせる
- 雪国であることや、歴史、人柄などの特性を十分勘案し、単なる他の模倣や数での論理に縛られず、恒久的に米沢を残す事が日本にとって必要であるこ

<ul style="list-style-type: none"> ● 山形大学工学部の研究集積とその活動をバックアップし、流入人口や雇用を増やす ● 社会貢献ビジネスや地域コミュニティ活動も含めた多様な働き方が可能となりどのライフステージにあっても働くことができる ● 分野を超えたネットワークの構築(行政・企業・NPO・学校等分野を超え、世代を超えて繋がる場) ● 人財を結ぶ場の提供 ● 雇用口の増加 ● なんとといっても仕事がなくてはいけない ● 生活にゆとりが持てる賃金が得られること ● 子育て、老後の不安を解消すること ● 観光産業で多くの職を作る仕掛け、観光地としてのブランディング ● 「かてもの」スローライフの推進 ● 付加価値あるおしゃれな一次産業 ● 定住促進地域の設定と集中的な施策の展開 ● 観光以外の米沢来訪者(企業活動者、自動車教習生徒、大学・短大生)への情報提供、体験観光プログラム提案 ● 米沢ゆかりの都市部(例えば千代田区、港区)との提携による人的交流の促進(よねざわファンの創出) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「足るを知る」教育 ● 互助精神の浸透 ● 市民と行政のかかわり ● 人(市民)と人とのかかわり(つながり) ● 高品質な住宅の供給や充実した商業集積と消費者サポート機能に加え、ユニバーサルデザインにより安全・快適に移動できる歩行経路や移動交通手段の確保によりいつまでも住み続けたいとなる住環境が整っている ● 各コミセンの管轄する地域規模で地域に出番と役割のある生涯学習の場づくり ● いつでも足を運べるような居場所 ● 内部では、上杉文化の尊重と更なる質的向上。外部的には倍旧のPR、経済力高揚 ● 就労による経済的自立が可能になる ● 健康で豊かな生活を送れるまち ● 「いつまでも健康で収入が得られること」 ● 地産地消の考えで、地域循環型の商工業、飲食業体系を作っていく ● 1人1台自家用車持つ必要がなく、高齢者・学生などの交通弱者を無くすための格安もしくは市民無料の公共交通機関 ● 雪のコントロール ● 保育園、幼稚園の給食室整備 ● 学問、教養、郷土愛、愛国心 ● 所得の向上 ● 物の消費ではなく時間の消費ができる場所、空間 ● 「褻」と「晴れ」(日常と非日常)のメリハリを感じられる生活(土日は近郊で畑仕事、たまにおしゃれなカフェ、レストランで食事など) ● ワークライフバランスと男女共同参画の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的な町米沢を生かしていくこと ● 国際観光都市として、観光資源の継続的な掘り起しや開発、個性的なイベントの誘致・創出により、国内外から多くの来街者が訪れ、インフォメーション機能や公共サイン・駐車場等の観光受入れ体制も充実している ● 小学校からのキャリア教育、学校をより地域に開かれたものにしていく(地域の人財を生かした教育) ● 上杉文化を理解し、より良い地域を創り支える人材の育成 ● 地域特性を生かした観光、産業の雇用を作っていく ● 何が米沢の特性であり、守っていかなくてはいけないものなのかを、はっきりと自覚して共有する。市民が自分の住む土地に誇りを持てるかが大事。その上で、維持と継承について広い視点で考える組織が必要 ● 地元の歴史の教育充実、伝統行事の推奨、伝統野菜作物の推奨 ● 上記のセミナーなどを行う文化施設の整備 ● 山大工学部の米沢4年制、栄養大学の拡大 ● 教育、学力向上 ● 地域資源の発掘、評価(現代版かてもの) ● 地域経済資源(米沢牛、米沢ラーメン等)のブラッシュアップ ● 農産物の付加価値創造、ブランディング ● 郷土愛、地域愛、愛国心(部活、スポ少偏重→土日のどちらかは地域活動参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ● とを常に徹底し、確認すること。米沢の年長者は、大変魅力的な方が多くいらっしゃいます。その力もしかるべく活用しては ● 名実ともに置賜の拠点都市となって、人口流出をエリア全体で食い止める(米沢だけの問題ではないという認識) ● 人口減少を少しでもストップさせること ● 企業の誘致などで雇用を生み出すような「新しいこと」はもちろん必要ですが、見直さなくてはいけないもの、失くしてはいけないものも同時に把握していなければ米沢の独自性は守れません。壊してしまったら取り戻せない建物、産業、モノ、人、・・・ ● 古いもの、古い景観、伝統ある物を残す活動 ● 大店法のような大型商業施設や商売のあり方についての規制制定 ● 生活保護、セーフティネット適用の最適化 ● 外国人による土地や施設の売買の規制、水源地の保全、外国人の政治参加規制、大量の転入の規制、
---	--	--	---

審議項目3 「10年後の米沢市の姿」の実現に向けて核となる取り組みとは(取り組みの選択と集中、分野を超えた取り組み、複数の取り組みを1つにまとめる等)

<p>Q:産業の振興を行うための核となる取り組みは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鷹山公の産業振興の精神は生きている。大学やサイエンスパークでの成果の事業化を進める。既存 	<p>Q:人財育成を行うための核となる取り組みは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子供の教育が大切。自立化教育、歴史、文化、理科の教育など。生涯学習や、大学を利用した社会人教育 	<p>Q:都市整備を行うための核となる取り組みは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンパクト化と集約化を進める。そのために第3セクター方式も一案か 	<p>(その他の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今の生産世代の意見や考え方が10年後の姿になるべきと思う ● 今の生産世代が自分の子供達に何をど
---	---	--	--

<p>企業の生産性を向上させる。女性や高齢者による労働人口を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お金が市内で循環する仕組みを作る ● 市内で生産したものが市民でも消費が出来る産業を掘起し、田畑の恩恵を受けられる様に回復させる ● 今後発展すると思われる分野の支援(山大工学部や米沢短大との繋がりを強める) ● 新しい農業を目指す会社の募集と支援 ● 有機EL等の技術研究を集めてバレー化 ● 働く女性の環境整備 ● 新分野である有機ELの米沢でのブランド化 ● 自然環境の良さ、食物の良さ、人の良さを活かした観光の強化 ● 付加価値を創出する能力を高め、10年後には付加価値を1.2倍まで50年後に約3倍に高める ● 省人化のための投資から、製品開発や市場開拓等の付加価値創出のための投資へのシフトを促進する ● 雇用の拡大を含めた労働分配率の向上(市民所得の雇用者へのシフト)を促進する ● 成長著しい海外市場への展開を支援する ● 内発的創造力を高めるサイエンスシティ(サイエンスパーク)の整備・運営 ● 国際人材の育成・強化 ● 「世界一チャンレンジしやすい街」とは何であるかを真剣に検討し、その実現のために行政主導のもと産学官金の連携にて人材や資金面での支援を行う事が重要と考える ● 各業種が米沢という一つのブランドで繋がる着地点づくり ● 国内外へのネットワーク強化(情報通信) ● 米沢のものづくり(農産品、製品、商品)のセールス ● 産学官民の協働体制で付加価値・ブランド力をつける ● 有機エレクトロニクス関連の地元企業での産業化(安い土地・低賃金などの発展途上国型の企業誘致ではもはやない) ● 各所に配置された情報端末機器や情報のインフラの整備によって地域の情報を積極的に発信することでまちの情報発信力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「公・私」から「公・民」の公共へ ● 生産世代の登用と活用 ● 子供時代から郷土愛を育てる教育 ● 全国からやる気のある人を募集(NPO法人等で皆の力を結集する) ● 各分野でのリーダー育成制度 ● 農業などでの研修、育成 ● 健康づくり・食育推進を実施するための指導者の養成 ● 家庭とコミュニティ両面における子育ての充実。能力の高さだけを人財とするのではなく、どれだけ、育った所に誇りを持った大人や郷土愛を持った大人に育てることが出来るかの視点で考える ● 国際人材の育成・強化 ● 20歳～30歳を中心とした将来を担う人材の転出を減らし、定着させる ● 海外との交流を促進する。地域に付加価値をもたらす海外からの人材を積極的に導入する ● 次世代を担う若手に既存権益や概念に縛られずにチャレンジ出来る(行動が出来る)人間こそ価値がある事を、純粋に理解させ、実際にそうしてきた人間と頻度高く触れられる機会を与える仕組み ● 米沢市の良さを生かした独自の教育システム既存する短大、大学の利活用による産業界との連携(地元のニーズに合った技術を教える機関を作る 下請けからの脱却など ● 芸術・文化・スポーツ学習等多機能対応施設充実 ● 地域人口バランスを考慮した学校編成で効率的な学習教育 ● 市民参加型の講習会・研修会の強化 ● 所得格差、家庭環境等に捉われず教育を受けられる取組み(医療費、保育費等の補助) ● 学童クラブの充実(クラブ内での学習指導) ● リカレント教育(生涯学習の場) ● 地域の中で小中高生の地域活動への参加、活用(地域の中でのかかわり、つながり) ● 地域の中で地域を語る機会の拡大 ● 産学公連携により、それぞれの持つ知識や人材を活かして、小中学校教育から政治や経済、社会に対しての教養を高める ● 格差の広がる家庭における親支援、縦割りで孤立しがちな課題を抱えた子どもを包括的に支援できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建造物を造り続けて老朽化した時には、巨大な廃墟が出来ることを最優先に考える ● シッター街の解消(全国にPRして若者に店を持たせる等を) ● 観光客を増やす ● 空き家の解消(市内に住むよう優遇策を) ● 広域連携による、行政サービスの兼業化 ● 市内中心部における公園の整備と遊び場の確保 ● スポーツ施設整備の強化 ● 定着した人が魅力を感じるまちづくり ● 地域を特徴づける景観整備 ● 里山コミュニティの形成 ● 都市機能と住環境を繋ぐ利便性の高い雪が苦にならない移動インフラの整備・充実(LRT: Light rail transit(次世代型路面電車)など) ● 市民と一体となった健康づくり、未病対策、医療体制の充実 ● 前述の生活の質を公平に市民が享受できるように、市民それぞれが持てるものを提供できる仕組み。市全体での相互扶助に参加しているということを知りやすく説明し実行してもらう ● 利便性を高めるためコンパクト(集中型)なまちづくり(道路整備) ● 農・地・水を主として農業振興を強化 ● 自然災害に対応できる排水・除雪対策 ● 集しやすい場所を提供する ● コンパクト化による効率化 ● コンパクト化を阻害する(不動産)資産価値減少への補完対策 ● 歴史的史跡・文化施設を拠点にした町づくりとそれに伴う機関の整備 ● 公園、広場などの憩空間、飲食や買い物に便利なバラエティ豊かな商業集積、自己のスキルアップのための文化施設が充実している ● 相互扶助、結の精神を持てるコミュニティ作り ● 特色ある地域毎に見事に整備された上杉の城下町づくり ● 地域コミュニティ拠点を中心に福祉を充実させていく ● 理想とする都市のイメージを具体的な「絵」として掲示できると良い。市民がそのイメージを 	<p>うしたいのかを今、考えるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各コミュニティでの大人と子どもが共に参加できるイベントの充実。各機関の連携 ● 子どもを守る視点での整備(自転車道の整備・通学路の街灯の整備・青パトの拡充など) ● 他の都市のマネでなく、米沢の課題をきちんと解決するしくみ(例:雪による生活不安の解消、独自の教育補助システム、米沢らしさを生かした介護福祉) ● 交通の利便性を良くする ● 家庭をつくり、米沢のためにつくす人づくり ● まずは個々の意識改革が必要でしょう。米沢は、観光地でありながら「きれいにする」という意識が足りないように感じます。まずは「掃除」から始めて成長していった企業も多くあります。地ならしとしての「クリーン作戦」というのもアリなのかと思います ● 観光地として生きていく・観光を産業の核にするという街全体の意識・姿勢・覚悟を醸成する ● 選択と集中(全ての政策分野で「若年者」と「女性」対象の施策を「子育て」「人材育成(教育)」の2つの視点で集中的に実施)
--	--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ● 若者が米沢で学び、米沢で働ける基盤作り ● 子育て等で地元に戻りたいと願う30代の若者が故郷に戻れる環境づくり(子育て応援のマニフェスト・理論と実践) ● 産・学・行・金等々連携協力による各種の産業づくりとその育成、開業支援 ● 人・物などの資源を活かしていく取り組み ● 米沢で働きたい、起業したいと思う若者の希望にこたえられるよう、働き先の整備と情報の発信に務める。就業能力の向上を図る ● 上杉博物館と稽照殿を一施設にまとめる ● 松岬神社など鷹山・直江関連施設の整備 ● 白子神社・禅林文庫跡の整備 ● 雪利用事業、農産物販売 ● 企業が米沢に進出したいと思えるような「魅力ある街」づくり(従業員が質の高い生活ができること(買い物、文化活動、子育て、教育)) ● 人を大切に「ブラック」ではない「ダイヤモンド」企業への支援(ダイヤモンド企業への優先発注、指定管理企業の労働条件審査) ● 女性が生き活きと活躍できる街づくり 	<p>センター的機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 米沢市の発展に寄与する人材の育成を目標として明確に掲げた学校教育・社会教育の実践 ● 福祉教育 ● 個々の特性を伸ばせるコミュニティや、学習の場の確保。それぞれに適正なリーダーを置き、人を育てる事。更に、企業との連携を図り就業に繋げていく ● 直江兼続が作った米沢の街造りの体験義務教育化 ● 上杉鷹山の考え方の市内小中学校の義務教育化 ● 本当の意味の「食育」推進 ● 学童保育→寺子屋保育などプロならざる人材の活用 ● 小中学校の学力県内ナンバーワンを目指す ● 進学塾に依存せず、退職教員等による低価格の学習塾による学力向上、英語力向上 ● 学童保育の質の向上 ● 中高生留学制度、大学生への奨学金制度の充実 ● 公的関与による若年者の職業能力開発(企業の人材育成への支援、公的機関の臨時職員を対象とした職業訓練) ● 山大、NEC等産学の協力による人材育成プログラム(大学、企業の人的・知的資源の活用) 	<p>目指して努力出来る「旗印」となるようなものをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駅～お堀への観光トラム線 ● 通勤バス路線拡充 ● 融雪溝、排雪用の水路整備 ● 興譲館の街なかへの移転 ● 市立病院の街なか建設 ● 地元商店の集積&チャレンジショップ街 ● まちなか居住による人口の集約化(民間資本による地域のなかの高齢者住宅(サ高住等)整備の支援) ● 新文化複合施設を核とした「賑わいのある」街の核となる中心商店街のリニューアル(リノベーション) 	
--	--	---	--

審議項目4 審議項目3における米沢市の特徴と課題とは(米沢市だからできること、やらなければならないこと)			
<p>Q:米沢市だからできる(やらなければならない)</p> <p>産業振興策は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当分は有機エレクトロニクス関連の産業化が急務。また、米沢の自然を活用した、食(ABC)、農林業の振興も重要 ● 県や国の助成金に頼る産業振興ではだめ ● 現在の工業産業振興も重要だが、米沢の広大な自然(田・畑・山)を活かす産業が必要 ● これまでの繋がりを生かし、たとえば有機EL関連産業や新エネルギー関連を伸ばし、さらにそれを発展させる企業を支援 ● 新しい産物を作り、全国にPR ● 有機EL等の先進技術の活用 ● 歴史文化の観光振興のための“本物”づくり 	<p>Q:米沢市だからできる(やらなければならない)</p> <p>人財育成策は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き教室やコミセンを利用した小学生と高齢者との交流 ● 社会人では、生涯学習の利用や山形大工学部におけるMOT教育 ● 老後重点策を、地域の「人材資源」の掘起しで若い世代との融合策を ● 米沢の良さを市民がPRしたくなる状況づくりとそのための情報提供 ● 郷土出身者からも市に望むことを聞く ● 米沢栄養大学と関連機関における総合的な健康づくり支援システムの構築 ● コミュニティ力を活かした知恵の伝授 	<p>Q:米沢市だからできる(やらなければならない)</p> <p>都市整備は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゾーン計画の立案(スポーツ、文化、歴史など)平和通などの中心部は文化ゾーンとする。図書館、科学会館など)。サッカー場一帯はスポーツゾーン。 ● 観光地が一人歩きをしない都市整備 ● 観光整備と地域住民が共生出来ている都市の整備と形成 ● 観光地としての整備(城下町らしい街並みとさらなる市民の憩いの場や道の整備) ● 二次交通(市民の足+通学+観光を兼ねた) ● わくわくランドの充実。市内公園の整備 ● テニスコート10面の確保。クロスカントリー場 	<p>(その他の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全体的バランスを熟慮した財政の管理(「輝くわがまち創造事業」のような各コミセン任意の補助金は、余裕のある時は良い方法だが、逼迫した財政下では不適切に思われる) ● 幼少期からの教育の大切さ、米沢の農工商の魅力と産物など、市民が獣運に理解できる仕組み。例:米織りのすばらしさを全市民がきちんと伝えられる、など ● 例えば30代には、ふるさとに戻りたい人が戻れるようなしくみを徹底して

<ul style="list-style-type: none"> ● 米沢市に特徴的な農産物を利用した新しい食品加工商品等の開発 ● 有機 EL の生活用品としての生産の安定と販路の拡大を実現させていくこと ● 小野川温泉とその近隣スポットに拡充した企画の工夫並びに四季まつりのさらなる定着 ● 経営者の意識変革の場の醸成 ● 高付加価値型産業の育成 ● 国際競争力ある製品づくり(農業を含めて) ● インバウンドをもたらす資源づくり ● 農業と IT の緊密融合 ● 日本の工業技術、伝統文化、農業をブランド化する最先端のモデル都市となる。そのためものづくりをする人材の育成、山形大学の教育力を高校卒業の労働者に提供するしくみづくりなど、いくつか案を考えてみました ● 米沢のものをセールス・PR強化(情報通信) ● 「米沢」のネームバリュー品を創出(付加価値) ● 観光資源を生かしたイベントの創出 ● 有機エレクトロニクス関連の地元企業での産業化 ● 地域間競争に勝てる観光振興(名所旧跡型→滞在型) ● 新たな価値を生み出す産学公連携やタウンマネジメント組織による地域経営の取り組み ● 山形大学・米沢栄養大学と企業の連携、各大学への地元高校からの進学率を高め、卒業後の受け皿作り ● 米沢のABCはじめ、観光分野も含めた後継者の育成 ● 相当規模(資本高)の米沢発の本社づくり ● コミュニティビジネス ● 観光振興ビジョン ● 現在進んでいる有機EL事業の活用支援 ● 自然(太陽・温泉・木材など)を活用したエネルギー、燃料の自給率を高める取り組みを進める ● 歴史と文化遺産を大いに活用しての観光誘致、商品の開発 ● 雪を利用した地元野菜、牛肉、果実などの雪室備蓄センター ● 雪・地熱発電などの研究 ● 有機EL事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小中学生を対象とした各大学オープンキャンパスの拡充 ● 米沢に定着し活躍する若手人材の確保、招聘(地域内進学率等の向上) ● 広い意味での若手経営人材の育成 ● 生涯学習機会の提供強化 ● チャレンジ精神の育成 ● 工業製品、食品、伝統工芸、全て原材料から製品まで一貫して供給する魅力を全市民が認識する。米沢出身者が市外で培った能力を30代から米沢で発揮できるしくみと機会の提供 ● 市外から実績や経験豊富な指導者や経営者を多方面で招へいや講師として呼び教育機関を中心に各種講習会・研修会を積極的に行う ● 米沢の良さ、産業文化歴史を教育の中でこれまで以上に取入れ将来米沢で活躍する人材を育成していく ● 鷹山大学やまちゼミなどを発展させて米沢型コミュニティカレッジに ● 米沢の祭りなどに若者をいかに取り込むか ● 産学公による小中学校での道徳教育の実施 ● NPO・企業と連携した縦割りではない子ども・若者の包括的な支援 ● 大学、高校と連携して、米沢の産業発展と文化向上に貢献してもらえる人財育成 ● 小・中学校の教育目標の見直し ● 学校教育にもっと踏み込んで、独自性を出す ● 米沢ならではの教育があっという間、道徳・倫理の時間、刺し子、機織り、謡などの米沢ならではの文化を、地域の市民を先生にして教えてもらうなどして地元愛を育てていく ● 正宗、謙信、景勝、直江、鷹山、前田慶次を米沢視点でまとめて教育する、鷹山公の生き方を学ぶ、教育勅語の理念を学ぶ ● なせばなるの精神文化を幼少期から大人まで徹底的に浸透させていく ● 若年者、女性の職業能力開発、就労支援に施策を集中する ● 地域作りリーダーを他から招聘(細井平洲先生、上杉治憲公の例あり) 	<p>の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的景観が残る中心都市機能の充実 ● 豊かに住み育てることができる里山 ● 都市機能と住環境を繋ぐ利便性の高い雪が苦にならない移動インフラの整備・充実(LRT:Light rail transit(次世代型路面電車)など) ● 雪の日の交通の確保、歩道、車道、米沢独自のオンデマンド交通の取り組み ● 生産ほ場基盤の整備(排水・用水)で生産者が作りやすい環境づくり ● 自然エネルギーの構築 ● コミュニティセンターの有効活用 ● 安全、学習、健康増進等地域で発信していく ● 過剰な住宅ストックの整理とグリーゾーンをグリーンゾーンに(植樹など) ● 伊達・上杉時代の歴史的なものの整備とアピール ● 散策に気持ちのいいオープンスペースや回遊性のある歩行者動線が日々のウォーキングルートとなり車社会の依存から脱却する ● 城下町としての景観形成(市民が一丸となって観光客を迎えられたら素晴らしい) ● 万全な除排雪対策 ● 雪に強いまちづくり ● 多くの観光客が長時間滞在し、再度訪れたいと思ってくれるまちづくり・人づくり ● 雪以外は安全な町というのは素晴らしい。雪に対しては万全の策をとり、安全安心をアピールする ● ある程度のコンパクトシティにはなっているようにも思うので、これ以上の枠を広げることなく、逆に中心市街地の空き地、空家を作らない様な取り組みを計画的にしていく ● 公営ギャンブル・パチンコなどの出店規制および既存営業店舗の排除(特に街なか) ● より高度な景観条例制定 ● 土地利用法の規制強化 ● 居住・生活エリアと余暇・時間消費エリアの明確なゾーニング(例)愛宕、小野川地区/移住促進地域 新商業立地地域 市民出資型の協働農園、協働果樹園(休みの日は畑仕事、温泉) 	<p>作る事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設(病院、図書館、すこやかセンター、高校等)へ自力で行ける手段がなさすぎる ● 自分自身が親から送ってもらい通学していたら大変な思いをしたいと高校生は思わない ● デマンド交通への移行 ● 医療、高齢者福祉対策の充実 ● 子育てしやすい環境づくり ● 学校を外へ外へと持って行く政策は失敗だったと感じている人も多いはず。失敗を繰り返さないよう、今後の学区編成や学校統合については熟考してくださるようお願いいたします ● 学生のいる町、みんなで子供を見守り育てる町でありたいと思います ● お母さんたちのパワーも重要な資源。子育てしながら働けるような一時預かり施設の充実も必須 ● 自動車を使うよりも公共交通機関を使ったほうが便利、お金がかからない街になるよう徹底していく事が重要
---	--	--	---

<ul style="list-style-type: none">● 地域資源の最大活用(リンゴ、牛肉、鯉、米沢ラーメン、和菓子、お茶、着物、農産物)● 上杉鷹山ブランドの最大活用(民の父母(行政、企業経営者の模範)、殖産興業、質素儉約、一汁一菜、なせばなるの精神)● 地域ごとの特産農産物、加工品の発掘とブランド化● 雪の「冷熱」エネルギーを活用した省エネ技術開発			
---	--	--	--